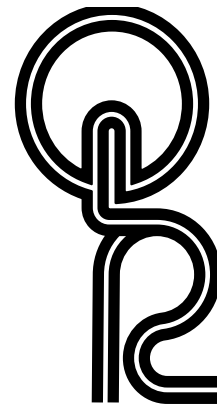


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 10 No.4, 2003



火山泥流で埋まった三宅島赤場暁北の椎取神社。三宅島では噴火後火山斜面の侵食が増し、溪流が泥流で埋められた。神社社殿は、軒下まで埋まったが、その後ゆっくりした洗掘によって溪床が約80cm低下し、社殿の側面が見えるようになった。(山崎晴雄 撮影)

---

Vol. 10 No. 4

August 1, 2003

---

学会からのお知らせ	2	討論会のお知らせ	14
2003年大会の案内	3	古生物研連議事録	15
2003年大会プログラム	6	幹事会議事録	15
国際会議出席報告	12	会員消息	16

---

## 学会からのお知らせ（委任状のお願い）

総会に出席できない方は同封しました葉書形式の委任状をお送りください。また、この頁の委任状（コピーまたは同様の文面でも結構です）を下記あてにファックスか郵便でお送りくださっても結構です。

委 任 状	
2003年 月 日	
日本第四紀学会会長 殿	
氏名	（署名または捺印）
<hr/>	
所属	
<hr/>	
私は議長（または 氏）を代理人と定め、2003年度の日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任します。	

送付先：鈴木毅彦（庶務幹事）東京都立大学大学院理学研究科地理学教室  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
FAX 0426-77-2589  
e-mail : suzuki@comp.metro-u.ac.jp

## 日本第四紀学会 2003年大会 - 総会・研究発表(第4報)

一般研究発表・シンポジウム 日本第四紀学会  
普及講演会 日本第四紀学会・大阪市立自然史博物館共催  
会場 大阪市立自然史博物館

1. 日程の概要  
一般研究発表, シンポジウム, 普及講演会, 総会, 評議員会, 懇親会, 巡検
2. 会場案内 大阪市立自然史博物館
3. 講演要旨集
4. 参加費
5. 懇親会
6. 大会プログラム
7. 総会
8. その他

### 1. 日程

- 2003年8月29日(金) 一般研究発表(大阪市立自然史博物館 講堂)  
9:30-10:18 オーラルセッション(O1-4)  
10:18-10:30 休憩  
10:30-12:16 ポスターセッション ショートサマリー(P1-53)  
12:16-13:30 昼食・休憩(幹事会 自然史博物館会議室)  
13:30-15:00 ポスターセッションコアタイム(大阪市立自然史博物館本館 特別展示室)  
15:00-17:00 オーラルセッション(O5-14)  
17:00-19:00 評議員会(大阪市立自然史博物館 集会室)  
ポスター展示時間 9:30-16:30 大阪市立自然史博物館 本館特別展示室
- 2003年8月30日(土) 一般研究発表(大阪市立自然史博物館 講堂)  
9:30-11:06 オーラルセッション(O15-22)  
11:06-11:10 休憩  
11:10-12:40 日本第四紀学会 2003年総会(大阪市立自然史博物館 講堂)  
12:40-13:30 昼食・休憩  
13:30-16:54 オーラルセッション(O23-39)  
18:00-20:00 懇親会(長居球技場レストラン「初亀」)  
ポスター展示時間 9:30-16:30 大阪市立自然史博物館 本館特別展示室
- 2003年8月31日(日) シンポジウム・普及講演会(大阪市立自然史博物館 講堂)  
シンポジウム 「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」  
9:30-12:00 シンポジウム講演(S1-7)  
普及講演会 「大阪100万年の自然と人の暮らし」(一般公開, 科学研究費補助金交付事業)  
13:30-16:30 普及講演会(L1-2)

2003年9月1日(月) 巡検

「大阪南部の大阪層群の地層および大阪平野の沖積層における堆積物と遺構」

案内者 三田村宗樹(大阪市立大学)・松田順一郎(東大阪市文化財協会)

巡検に申し込まれた方は会場受付で支払いをし, 必要な資料を受け取って下さい。

(早めに受付に行ってください)。なお, 野外見学会の詳細については第3報をご覧ください。

\* 今年には講演の申し込みが多く, また会場の使用時間が限られているため, オーラルでの発表とポスターでの発表のどちらでもよいと申し込まれた方は, すべてポスターでの発表とさせていただきます。

\* オーラルの講演は例年通り1会場で行われます。発表時間は1件12分で質問時間を含みます。ベルは1鈴8分, 2鈴10分, 終鈴12分です。2鈴で講演を終え, 残り時間を質疑に充て

てください。

\* スライドとOHPはそれぞれ1台ずつ、同時に使用可能です。液晶プロジェクターとスライドを同時に使用することはできません。

\* 一般研究発表でのスライド・OHP・液晶プロジェクターの使用は合計8枚以内でお願いします。スライドは発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出してください。各スライドには順番、上下左右を明記するか、あるいはご自分でマガジンに入れてください。OHPはご自分で操作して下さい。

\* 液晶プロジェクターを用いた口頭発表の準備について

本大会会場ではMicrosoft PowerPointを用いた口頭発表が可能です。このために会場にはWindowsパソコンに接続した液晶プロジェクターを用意します。Microsoft PowerPointを利用する発表者は、発表前の休み時間を利用して液晶プロジェクターに接続されたWindowsパソコンにデータファイルをコピーしてもらう必要があります。

Microsoft PowerPointでの発表希望者は、データファイルを下記のファイル形式のCD-RまたはUSBフラッシュメモリーにデータファイルを記録して会場まで持参ください。発表時に極力トラブルのないようにお願いいたします。特にMacintoshを使用の方は、事前にWindowsパソコンでの試行をお願いします。また、PowerPointファイルはできるだけデータ量の小さいものにしてください。

大会会場でのプレゼンテーション使用ソフト：Microsoft PowerPoint 2002

CD-Rのファイル形式：ISO 9660形式

\* ポスターセッションは縦180cm、横180cmのパネルが用意され、掲示は29日(金)9:30から30日(日)16:30まで可能です。なお、29日午後のポスターセッションコアタイムの時間には質問等が受けられるように、発表者はできる限りポスターセッション会場にいて下さい。

\* ポスターセッション発表者にはオーラル講演の間(8月29日)に1件2分以内のショートサマリー発表の時間が与えられます。2枚以内のOHPを使って要領よくセールスポイントを伝えて下さい。ショートサマリーではスライドと液晶プロジェクターの使用はできませんので、ご注意ください。

\* ポスターセッションのその他の要領に関しては大会第3報を参照して下さい。

## 2. 会場案内

一般研究発表、シンポジウム、普及講演会、総会、評議員会：

大阪市立自然史博物館講堂および本館特別展示室

(〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23, Tel: 06-6697-6221)

懇親会：長居球技場レストラン「初亀」06-6697-6221(代)

大阪市立自然史博物館への交通

- ・地下鉄御堂筋線「長居」駅から徒歩10分。またはJR阪和線「長居」駅から徒歩15分。
- ・車で来場される方は、長居公園駐車場(100円/15分、1日3000円)に駐車して下さい。
- ・博物館への一般の入場口と、第四紀学会参加者の受付口は別となっております。「博物館事務室入口」へお進み下さい。植物園正面ゲート・花と緑と自然の情報センターからは入場できません。
- ・詳しくは、次ページの地図および自然史博物館ホームページ(<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>)を参照して下さい。

大会連絡先：吉川周作

大阪市立大学理学研究科人類紀自然研究室 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

Tel: 06-6605-2590 Fax: 06-6605-3176 e-mail: qrosaka@sci.osaka-cu.ac.jp

大阪大会のホームページ

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geos3/qr2003/index.htm>

大会実行委員会

委員長：吉川周作

委員：石井久夫、石井陽子、熊井久雄、小倉徹也、樽野博幸、趙哲済、塚腰実、中条武司、那須孝悌、松田順一郎、三田村宗樹

### 3. 講演要旨集

講演要旨集は会場で直接販売致します。定価は2,000円です。大会終了後、通信販売もいたしますので購入ご希望の方は、下記へお申し込み下さい。

(財)日本学会事務センター 事業部  
〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC-21  
TEL 03-5814-5811 FAX 03-5814-5822

### 4. 参加費

今大会では、参加費として2,000円を徴収します。ご協力をお願いいたします。

### 5. 懇親会

8月30日(土) 18:00から  
場 所：長居球技場レストラン「初亀」  
参加費：一般5,000円、院生・学生3,000円  
8月29日から第四紀学会会場で受付をいたします。

### 6. 大会プログラム

(6ページ以降を参照してください)

### 7. 総会

8月30日(土) 11:10～12:40  
場 所：大阪市立自然史博物館講堂

### 8. その他

評議員会は8月29日(金)の夕方に開催されます。時間および会場等の詳細については、学会事務局より各評議員に個別に連絡致します。

## 第四紀学会2003年大会(大阪市立自然史博物館)の会場案内



## 6. 大会プログラム

8月29日(金)

一般研究発表 オーラルセッション 1日目

一昨年まで第四紀学会大会の一般発表のプログラムは研究対象地域により、北から南へ、そして外国の順に組まれていましたが、2003年大会では昨年と同様に発表内容により大きく、考古、地形・段丘・断層、年代・海水準変動、テフラ、地質ほか、古気候・植物などに分けて大会プログラムを組みました。発表によっては区分の難しいものもありましたが、発表者の都合や希望などもふまえ、こちらで区分をして、プログラムを組ませていただきました。

No. 講演時間 題目・氏名

## &lt; 考古 &gt;

- 1 9:30-9:42 先土器時代における火処の探求 - 大和市上草柳第3地点南遺跡の自然残留磁化測定と炭化物片分 ..... 会田信行(千葉県立佐倉東高校)・織笠昭
- 2 9:42-9:54 最終氷期末以降における諏訪湖の湖水準と気候変動の関係: 遺跡の地理的分布に関する予察的検討 ..... 福澤仁之(東京都立大)
- 3 9:54-10:06 剥片石器の石材に利用された、岐阜県下呂町に産する「下呂石(湯ヶ峰流紋岩)」の広がり(1) ..... 岩田修(高山市立三枝小)
- 4 10:06-10:18 縄文時代~平安時代の土器の化学成分から見た土器生産における土地利用 ..... 松本建速(筑波大)
- 10:18-10:30 休憩
- 10:30-12:16 ポスターセッション ショートサマリー (P1-53, 各2分)
- 12:16-13:30 昼食・休憩(幹事会 自然史博物館会議室)
- 13:30-15:00 ポスターセッション コアタイム(自然史博物館本館特別展示室)

## &lt; 地形・段丘・断層 &gt;

- 5 15:00-15:12 三重県北部篠立石灰洞をめぐるネオテクトニクス ..... 松葉千年(桑名市)
- 6 15:12-15:24 ボーリングコアの解析からみた完新世における桑名断層の活動間隔評価 .. 鳴橋龍太郎・須貝俊彦(東京大)・藤原治(核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)・粟田泰夫(活断層研究センター)
- 7 15:24-15:36 後期更新世以降における四日市断層の活動性評価 ..... 大上隆史・須貝俊彦(東京大)
- 8 15:36-15:48 北勢 - 多度撓曲の直上に立地する遺跡(飛鳥時代)の変形 ..... 渡辺満久(東洋大)・鈴木康弘(愛県大)
- 9 15:48-16:00 垂直変位に伴う破碎幅の累積性 ..... 吉村辰朗・大繁忠治・間野道子(復建調査設計)
- 10 16:00-16:12 四国中央構造線活断層系の最新活動時期と六甲・有馬 - 高槻断層帯の連動 ..... 森野道夫(応用地質)・岡田篤正(京都大)
- 11 16:12-16:24 愛媛県加茂川の非対称蛇行に見られる傾斜運動 - 四国山地中央部北斜面の形成に関する研究(1) - ..... 岡義記(放送大)
- 12 16:24-16:36 越後平野東部山地における段丘形成過程の違いとその意義 - 荒川, 胎内川, 加治川と新潟県中南部の河川の比較 - ..... 藤平秀一郎(新潟大)
- 13 16:36-16:48 琉球弧地背斜部沖縄島で認識された多数の地すべり地形と島嶼破壊過程との関わり ..... 木庭元晴(関西大)
- 14 16:48-17:00 完新世における海水準変動とベトナム北部, ソンホン(紅河)デルタの地形発達 ..... 田辺晋・斎藤文紀(産総研)・堀和明(学振)・春山成子(東京大)

8月30日(土)

一般研究発表 オーラルセッション 2日目

## &lt;年代・海水準変動&gt;

- 15 9:30-9:42 由布火山北麓に分布する腐植質土壌層の<sup>14</sup>Cクロノロジー ..... 奥野 充 (福岡大)・藤沢康弘 (応用地質)・中村俊夫 (名古屋大)・小林哲夫 (鹿児島大)
- 16 9:42-9:54 長江の開析谷充填堆積物から得られた軟体動物化石と有機炭素の放射性炭素年代値の差異 ..... 堀 和明 (学振・産総研)・斎藤文紀 (産総研)
- 17 9:54-10:06 標準曲線を用いる簡易な貝化石のESR年代測定法 ..... 中里裕臣 (農業工学研究所)
- 18 10:06-10:18 サンゴ化石のスペクトル<sup>230</sup>Th/<sup>234</sup>U年代からみた琉球列島における<sup>14</sup>Cリザーバー年代 ..... 佐々木圭一 (金沢学院大)・大村明雄 (金沢大)
- 19 10:18-10:30 琉球列島更新統琉球層群の<sup>230</sup>Th/<sup>234</sup>U年代からの新知見 ..... 山田茂明 (金沢大)・松田博貴 (熊本大)・大村明雄 (金沢大)
- 20 10:30-10:42 フィリピン諸島の完新世サンゴ礁段丘形成史 ~ルソン島西海岸部の例~ ..... 細野洋祐・大村明雄 (金沢大)・前田保夫 (フィリピン大)
- 21 10:42-10:54 Last Interglacial Sea Level Changes in Southwest Bohol, Central Philippines..... Ringor, C. L.・Omura, A. (Kanazawa Univ.) and Maeda, Y. (Univ. Philippines)
- 22 10:54-11:06 フィリピン国サマル島島の完新世の海水準変動 ..... 前田保夫 (姫路工大), 横山祐典・奥野淳一 (東京大), 中村俊夫 (名古屋大), ヘルナンド・シリガン (フィリピン大), ロス・バーディン (オーストラリア国立大)
- 11:06-11:10 休憩
- 11:10-12:40 日本第四紀学会 2003年総会 (大阪市立自然史博物館 講堂)
- 12:40-13:30 昼食・休憩

## &lt;テフラ&gt;

- 23 13:30-13:42 坂井火山灰層 - 東海・北陸・新潟を結ぶ, 前期鮮新世の広域テフラ - ... 田村系子・山崎晴雄 (東京都立大)・水野清秀 (産総研)
- 24 13:42-13:54 日本海中央部の酸素同位体ステージ3の3枚の火山灰 ..... 池原 研・Chun Jong-Hwa・吉川清志 (産総研)
- 25 13:54-14:06 U-Ym テフラの起源と対比 ..... 千鐘華・池原 研 (産総研)

## &lt;地質ほか&gt;

- 26 14:06-14:18 尾瀬ヶ原中田代竜宮付近における泥炭地の拡大 ..... 相馬秀廣・坂本直樹・深澤優子 (奈良女子大)・阪口 豊 (東京大)・中村正信・田澤雄二・松本 博・廣瀬昌憲・荻野晃也・中西利典 (京都大)
- 27 14:18-14:30 粒度組成と堆積速度, およびその時間変化からみた濃尾平野完新統の堆積プロセス ..... 山口正秋・須貝俊彦 (東京大)・藤原 治 (核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター)・鎌滝孝信 (産総研)・大森博雄 (東京大)・杉山雄一 (産総研)
- 28 14:30-14:42 完新世後期におけるオホーツク海南西部の海底環境 - フランボイダルパイライトの深度変化にもとづく検討 - ..... 小森次郎・福澤仁之 (東京都立大)
- 29 14:42-14:54 宮崎県北部, 延岡周辺の溺れ谷低地における完新世相対的海水準変動 ..... 大平明夫 (宮崎大)・松島義章 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
- 30 14:54-15:06 古地磁気層序および広域テフラ対比に基づく長野県南部, 伊那層群の年代層序 ..... 菅沼悠介・白井正明 (東京大海洋研)
- 31 15:06-15:18 土壤理化学性による関東ロームの層位学的検討 第一報 関東ローム層の年代区分と化学組成 ..... 戸嶋健一 (明治大)・川井伸朗 (明治大・クレアテラ)・近藤了裕 (明治大・サカタのタネ)・竹迫 紘 (明治大)
- 32 15:18-15:30 愛媛県大洲・内子盆地に分布する第四系の堆積年代 ..... 山下大輔 (中央開発)・吉川周作 (大阪市大)・塚越 実 (大阪市立自然史博物館)・長岡信治 (長崎大)・熊原康博 (広島大)

2003年大会プログラム

- O-33 15:30-15:42 中央ヒマラヤ, 古カトマンズ湖の堆積環境の変遷 .....  
... 酒井治孝・Mukunda Raj Paudel・林 辰弥(九州大)・藤井理恵(岡山理  
科大)・矢作 亘・酒井英男(富山大)・内田昌男(海洋科学技術センター)
- <古気候・植物>
- O-34 15:42-15:54 花粉分析に基づくカトマンズ盆地の約20~1.3万年前の古気候変動 .....  
..... 藤井理恵(岡山理科大)・酒井治孝(九  
州大)・矢作 亘・酒井英男(富山大)・内田昌男(海洋科学技術センター)
- O-35 15:54-16:06 千葉県八千代市新川低地における沖積層の花化石群集から見た古植生変  
遷 ..... 稲田 晃(千葉県立船  
橋北高校)・楡井 尊(埼玉県立自然史博物館)・関東中央部花粉グループ
- O-36 16:06-16:18 古植生とその変遷の背景にある人為的干渉 - 新潟県新発田市升潟周辺の  
例 - ..... 三村昌史(パレオ・ラボ)・高橋正道(新潟大)
- O-37 16:18-16:30 中部日本内陸都市における人間活動による自然環境へのインパクト - 長  
野市浅川地域の例 - ..... 富樫  
均(長野県自然保護研究所)・田中義文・興津昌宏(パリノ・サーヴェイ)
- O-38 16:30-16:42 珪藻類を用いた相対的の海水準変動の定量的復元 - 北海道東部太平洋沿岸  
における地震性隆起量の推定 - ..... 澤井祐紀(産総研)
- O-39 16:42-16:54 過去100年の気候変動及び富栄養化インパクトに伴う琵琶湖の陸水学的変  
動過程 ..... 加 三千宣(愛媛大)・吉川周作(大阪市大)・井内美郎(愛媛大)

懇親会

18:00-20:00

ポスターセッション: 29日(金)

(ショートサマリー 10:30-12:16, コアタイム 13:30-15:00)

No. 題目・氏名

<年代・微量元素>

- P-1 隆起ヤッコカンザシの<sup>14</sup>C年代から推定される三浦半島南部沿岸の海洋リザーバー効果 ..  
..... 宍倉正展(産総研)
- P-2 中部琉球喜界島における海洋酸素同位体ステージ5の相対的の海面高度 .....  
..... 稲垣美幸・大村明雄(金沢大)
- P-3 *Acropora palifera* (イシサンゴ) 骨格中のウランおよびストロンチウム量とその温度計  
としての可能性 ..... 山崎まゆ・大村明雄(金沢大)・鈴木淳・野原昌人(産総研)

<テフラ>

- P-4 古琵琶湖層群堅田累層山下火山灰と上総層群笠森層 Ks5 火山灰の対比 .....  
..... 里口保文(琵琶湖博物館)・服部 昇(堅田高校)
- P-5 大阪平野南部, 泉北丘陵松尾寺町北方における, 大阪層群の火山灰層序 .....  
..... 石井陽子(大阪市立自然史博物館)・大阪市大)
- P-6 鹿児島県トカラ列島口之島の火山地質とテフラ ..... 中尾武司・古山勝彦(大阪市大)

<地形・段丘・断層>

- P-7 黒松内低地断層帯調査で得られた放射性炭素同位体年代と火山灰 .....  
..... 吾妻 崇・桑原拓一郎・下川浩一・杉山雄一・寒川  
旭(産総研)・奥村晃史(広島大)・黒澤英樹・三輪敦志(応用地質)・古澤明(古澤地質)
- P-8 新潟県高田平野の微地形と遺跡分布 ..... 卯田 強(新潟大)・工藤力(庄内測量設計舎)
- P-9 長岡・小千谷の活褶曲地域に見られる微地形 ..... 東 慎治・卯田 強(新潟大)
- P-10 Correlation and Chronology of Fluvial Terraces along the Shinano River Fold and  
Thrust Fault Zone, Central Japan .....  
..... KIM, H. Y. (Kyoto Univ.) and Sinagawa, S. (Public Works Research Institute)
- P-11 北陸地方東部(金沢平野~富山平野間)における河成段丘面の編年と対比 .....  
..... 中村洋介・岡田篤正(京都大)



- P-12 ボーリング試料分析による濃尾平野西麓断層帯の完新世の活動 ..... 中西利典・竹村恵二・岡田篤正(京都大)
- P-13 琵琶湖北方の奥川並断層の詳細な位置と完新世の断層活動 ..... 尾池和夫・岡田篤正(京都大)・杉山雄一(産総研)・松田時彦(地震予知振興会)・木戸研太郎(水公団)・松井和夫・園田玉紀(ダイヤコンサルタント)・斉藤勝(産総研)
- P-14 京都盆地における2次元重力解析より推定された堆積層の密度 - 堀川・巨椋池, 久世橋, 丸太町測線 - ..... 井上直人・田中靖之・伊藤陽之・岩野祥子(京都大)・北田奈緒子(地域地盤環境研究所)・福田洋一・竹村恵二(京都大)
- P-15 兵庫県六甲山地南麓, 芦屋川沖積扇状地における表層地質の層序・年代 ..... 辻康男(パリノ・サーヴェイ)
- P-16 六甲断層の活動性について ..... 岡田篤正・寒川旭・宇治豪・沖村孝・加藤茂弘・高田至郎・松田時彦(兵庫県地域活断層調査委員会)・宮脇理一郎・宮脇明子(阪神コンサルタンツ)
- P-17 塩尾寺断層の反射法地震探査・ボーリング調査 ..... 寒川旭・岡田篤正・宇治豪・沖村孝・加藤茂弘・高田至郎・松田時彦(兵庫県地域活断層調査委員会)・末廣匡基・家村克敏(阪神コンサルタンツ)
- P-18 雲仙活断層群の最近10万年間の活動 ..... 長岡信治(長崎大)・雲仙活断層研究グループ
- P-19 ワシントン州, Puget Sound 岸の完新世海成段丘とSeattle断層群による変形 ..... 太田陽子(横浜国大)・小田切聡子(国土地理院)
- <地質ほか>
- P-20 三重県櫛田川河口干潟における大規模ベッドフォームの移動様式 ..... 中条武司(大阪市立自然史博物館)
- P-21 関東山地四万十帯ホルンフェルスの鉱物・化学組成の特徴 ..... 加賀美英雄(城西大)・谷口英嗣(駒沢大高校)
- P-22 東京都江戸川区小松川地区で掘削された沖積層のボーリングコア(GS-KM-1)の堆積相とその堆積物特性・放射性炭素年代 ..... 宮地良典(産総研)・石原与四郎(福岡大)・田辺晋・木村克己・中島礼・原未来也(産総研)・中山俊雄(東京都土木技術研究所)・堀和明(産総研)
- P-23 埼玉県草加市柿木地区で掘削された沖積層ボーリングコア(GS-SK-1)の堆積相とその堆積物特性・放射性炭素年代 ..... 石原与四郎(福岡大)・木村克己・宮地良典・田辺晋・稲崎富士・中島礼・原未来也(産総研)・八戸昭一(埼玉県環境科学国際センター)・堀和明(産総研)
- P-24 沖積層のpH・電気伝導度・イオン濃度特性 - 東京都・中川低地のボーリングコア(GS-KM-1, GS-SK-1)の例 - ..... 原未来也・木村克己・宮地良典・田辺晋(産総研)・石原与四郎(福岡大)
- P-25 ボーリング調査と音波探査から見た富士五湖本栖湖湖底堆積物の地質 ..... 内山高・輿水達司(山梨県環境科学研究所)
- P-26 長野県深見池の湖沼年縞堆積物を用いた生物生産量変動の復元 ..... 川上郁夫・松尾政規(東京都立大)・加藤めぐみ(国立科博)・福澤仁之(東京都立大)
- P-27 長野新潟県境付近におけるローム層中の炭を用いた層序学的研究 ..... 浅生亮介(大阪市大)
- P-28 滋賀県曽根沼堆積物の大微粒炭(macroscopic charcoal)と小微粒炭(microscopic charcoal)分析に基づく植物燃焼の変遷 ..... 井上淳(学振)・高原光(京都府大)・吉川周作(大阪市大)
- P-29 琵琶湖高島沖コアの粒度分析結果 ..... 蓑輪貴治(大阪市大)・井内美郎(愛媛大)・吉川周作(大阪市大)
- P-30 大阪市長池堆積物における多環芳香族炭化水素の歴史的变化 ..... 石竹美帆(大阪市大)・森脇洋・加田平賢史・山本攻・鶴保謙四郎(大阪市立環境科学研究所)・吉川周作(大阪市大)
- P-31 大阪平野部の沖積層について ..... 北田奈緒子・斎藤礼子・伊藤浩子・岩城啓美・諏訪靖二(地域地盤環境研究所)・竹村恵二(京都大)・三田村宗樹(大阪市大)
- P-32 磁気的手法を用いた神戸港沖コア試料の対比 ..... 岩城啓美・伊藤浩子・北田奈緒子・諏訪靖二(地域地盤環境研究所)・林田明(同志社大)・竹村恵二(京都大)
- P-33 中国のレス・湖沼堆積物に記録されるMIS3期の夏季モンスーン強化 .....

- ..... 山田和芳 (東京都立大)
- P-34 中国浙江省, 姚江平原における完新世の堆積環境の変遷 ..... 福岡正春・北川浩之 (名古屋大)・林田明 (同志社大)・金忠南 (寧波大)・邵堯明・邵九華 (余姚市)・湯陵華 (江蘇省農業科学院)
- P-35 海洋地球観測船「みらい」のミッションと観測機器そして BEAGLE2003..... 藤岡換太郎・奥村 智・末吉惣一郎・徳長 航・長浜則夫・今井康貴・奥村慎也・前野克尚・木村 亮 (GODI)・高尾宏一と MWJ および 滝沢隆俊と JAMSTEC
- < 古気候・植物・無脊椎動物 >
- P-36 過去の水田堆積物から産した植物珪酸体化石群 ..... 江口誠一 (千葉県立中央博物館)
- P-37 新潟県佐渡島, 乙和池堆積物の年代と花粉分析 ..... 叶内敦子・神谷千穂・杉原重夫 (明治大)
- P-38 長野県野尻湖周辺の上部更新統における草本植物花粉出現率急変層準 ..... 星野安治 (京都大)・野尻湖花粉グループ
- P-39 長野県仲町遺跡の上部更新統野尻湖層におけるヤベオオツノジカ消滅層準の花分析 ..... 上中央子 (京都造形芸大)・渡辺哲也 (信濃町教育委員会)・那須孝悌 (大阪市立自然史博物館)・松江実千代 (高槻市立第六中)・本郷美佐緒 (大阪市立大)・水谷陸彦 (総合科学)・坂本清子 (大阪産業大)・星野安治 (京都大)・渡辺正巳 (文化財調査コンサルタント)
- P-40 京都盆地の表層地質 - ボーリングデータベースと地質分析からの検討 - ..... 伊藤浩子・北田奈緒子・岩城啓美・諏訪靖二 (地域地盤環境研究所)・竹村恵二 (京都大)・三田村宗樹 (大阪市大)
- P-41 岸和田市北阪町に分布する大阪層群から産出した大型植物化石 ..... 塚越 実 (大阪市立自然史博物館)
- P-42 Pollen evidence of mangrove development since mid-Holocene in the northern Hainan Island, China..... Mao L. (Osaka City Univ.)
- P-43 琵琶湖堆積物コアにおける珪藻殻のタフオノミー: 過去4万年間の珪藻生産量, 珪藻殻の保存, 碎屑鉱物による希釈効果の評価 ..... 加藤めぐみ (学振・国立科博)・谷村好洋 (国立科博)・山田和芳・福沢仁之 (東京都立大)
- P-44 大阪湾における過去約1万年間の古環境変遷史 - 表層堆積物中の珪藻遺骸群集分布と完新世ボーリングコア中の珪藻化石群集の変化から - ..... 廣瀬孝太郎 (大阪市大)・佐藤裕司 (姫路工大)・兵庫県立人と自然の博物館)・三田村宗樹 (大阪市大)・七山 太 (産総研)・吉川周作 (大阪市大)
- P-45 大阪湾の現生底生有孔虫群集と水域環境 ..... 辻本 彰 (大阪市大)・野村律夫 (島根大)・吉川周作 (大阪市大)
- P-46 完新世貝形虫群集から復元された海底活断層の活動履歴: 伊予灘中央構造線の活動に伴う地震性沈降イベント ..... 安原盛明 (大阪市大・学振)・吉川周作 (大阪市大)・七山 太 (産総研)
- P-47 大阪平野の後期更新世および完新世の貝類相 ..... 石井久夫 (大阪市立自然史博物館)
- P-48 房総半島北部, 木更津台地長石層の堆積過程と地形生成 - 生痕化石と旧汀線の変移 - ... 佐藤俊文 (千葉県立木更津東高校)
- < 脊椎動物・考古 >
- P-49 中国北部の下部更新統から発見されたムカシマンモスの祖先 ..... 樽野博幸 (大阪市立自然史博物館)・魏光 (大阪市大・中国科学院古脊椎動物古人類研究所)
- P-50 岩手県大迫町風穴洞穴遺跡の後期更新世と完新世の哺乳類化石群集の概要 ..... 河村善也 (愛知教育大)
- P-51 長野県北相木村栃原岩陰遺跡から出土したシカの年齢構成 ..... 利涉幾多郎 (大阪市大)
- P-52 石器の磨耗度による「原位置」と一括遺物の判定 - 旧石器ねつ造問題と関連して - ..... 中村由克 (野尻湖ナウマンゾウ博物館)
- P-53 遺跡発掘調査に係わる各種微化石ダイアグラム入力フォーマットについての提言 ..... 渡辺正巳・渡野徳彰 (文化財調査コンサルタント)

## シンポジウム「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」

世話人：石綿しげ子・熊井久雄・松田順一郎・三田村宗樹  
 8月31日(日)9:30-12:10：大阪市立自然史博物館 講堂

No.	講演時間	題目・氏名
	9:30-9:40	開会挨拶
S-1	9:40-10:00	大阪平野における難波累層(沖積層)の岩相層序の再検討*..... ..... 三田村宗樹・橋本真由子(大阪市大)
S-2	10:00-10:20	大阪府河内平野沖積低地南部,旧大和川分流路帯における完新世後半の 河川地形変遷*..... 松田順一郎(東大阪市文化財協会)
S-3	10:20-10:35	堀・溜池堆積物中の微粒炭と球状炭化粒子から見た過去100年間の火災 史および化石燃料燃焼史..... 村上晶子(大阪市大)・井上 淳(学振)
S-4	10:35-10:50	大阪城堀および大阪近郊のため池堆積物から見た過去約100年間の重金 属汚染の歴史.....
S-5	10:50-11:10	..... 稲野伸哉(大阪市大)・山崎秀夫(近畿大)・吉川周作(大阪市大) 濃尾平野の完新統最上部に記録された堆積場の変遷*.....
S-6	11:10-11:30	... 小野映介・海津正倫(名古屋大)・鬼頭 剛(愛知県埋蔵文化財センター)
S-7	11:30-11:45	東京湾北部沿岸地域の沖積層*..... 石綿しげ子(基礎地盤コンサルタンツ)
		東京低地から中川低地の沖積層の堆積相と層序区分 - ボーリングコアの 高精度解析に基づいて - .....
		木村克己・宮地良典(産総研)・石原与四郎(福岡大)・田辺晋・稲崎富士・ 中島 礼・原 未来也(産総研)・中山俊雄(東京都土木技術研究所)・八戸昭 一(埼玉県環境科学国際センター)・中澤努・堀和明・斉藤文紀(産総研)
	11:45-12:00	総合討論
	12:00	閉会挨拶

\*キーノート：講演時間20分(質疑時間5分を含む)  
 その他：講演時間15分(質疑時間3分含む)

## 普及講演会「大阪100万年の自然と人の暮らし」

世話人：吉川周作  
 8月31日(日)13:30-16:30：大阪市立自然史博物館 講堂

No.	講演時間	題目・氏名
	13:30-13:35	開会挨拶
L-1	13:35-14:55	大阪平野と台地の生い立ち..... 趙哲済
	14:55-15:10	休憩
L-2	15:10-16:30	都市大阪の発生と展開 - 中世から近世へ..... 松尾信裕
	16:30	閉会挨拶

## 「第3回国際マンモス会議」出席報告

高橋啓一(琵琶湖博物館)・五十嵐八枝子(北方圏古環境研究室)

5月24日～5月29日の間、カナダのホワイトホース市およびドーソン市で標記の国際会議が開催され、日本からは筆者らが出席した。この国際会議は、4年に一度開催されており、第1回目は1995年にロシアのサンクトペテルブルクで、第2回目はオランダのアムステルダムで開催された。これらの報告は、それぞれ犬塚・長野古生物学博物館(化石, 59, 76-78, 1995)、高橋(地質学ニュース, 2, 6, 12, 1999)によって行われているので、興味がある方は参照願いたい。

今回開催されたホワイトホース市およびドーソン市は、カナダ北西部のアラスカに接するユーコン準州の都市である。この地域は氷河が作り出した地形が手付かずのまま残っている地域で、北緯60°～70°の高緯度にあるため開催中は夜中も明るい白夜の状態であった。

会議はまず24日にユーコン準州の首都であるホワイトホース市のYukon Beringia Interpretive Centre に集まって始まった。ここまでは、定期便の飛行機があるが、会議の本会場となったドーソン市までは翌日に市の黄色のスクールバス2台と参加者の車に分乗して約536キロの距離を途中何箇所かで地形や地層の説明を聞きながら1日かけて移動した。

本会議は北米の歴史を大きく変えた100年前のゴールドラッシュ発祥の地であるドーソン市のDawson City Odd Fellows Hallで3日間行われた。参加者はマンモスゾウやその祖先種が産出する国々から120名余りであったが、日本からは残念ながら著者ら二人だけであった。

発表は11のセッションに分かれ、49の口頭発表と30のポスター発表が様々な分野で行われた。各セッションのタイトルは以下のとおり



巡検で採集されたバイソンやマンモスゾウの化石

である。

- Session 1 : Mammoth Evolution and Taxonomy
- Session 2 : Mammoth Expedition
- Session 3 : Some North American Mammoth Sites
- Session 4 : Stable Isotopes and DNA
- Session 5 : Replacement Events for the Mammoth Fauna
- Session 6 : Ice Age Hunters
- Session 7 : Mammoth/Human Interactions
- Session 8 : Special Elements of the Mammoth Fauna
- Session 9 : Paleoecology and Behavior in the Mammoth Fauna
- Session 10: Extinction of the Mammoth Fauna
- Session 11: Composition and Distribution of the Mammoth Fauna

高橋は、このうちSession5でKeiichi TAKAHASHI, Yuji SOEDA, Goro YAMADA, Morio AKAMATSU, Masami IZUHO, and Kaori AOKI: Replacement of *Mammuthus primigenius* and *Palaeoloxodon naumanni* accompanying climate change in Japan と題して口頭発表を行った。この内容については、近く第四紀研究に投稿する予定である。

発表が終了した翌日29日には巡検が行われた。この巡検ではこの地域の地質の説明やマンモス動物群の化石が産出する場所の見学と化石の採集が行われた。マンモス動物群の化石産出場所では、1時間ほど参加者が歩きまわると60～70個程度の骨格化石が簡単に地表で採集できた。それらは、バイソンがもっとも多く、その他マンモスゾウ、ウマ、トナカイ、食肉類などが混ざっていた。この場所にはアラスカ火山から飛んできた広域火山灰が分布しており、その年代は約24,000年前であるとの説明があった。また、露頭ではきれいなアイスウエッジも見ることができた。

なお、この学会には96歳にもなるロシアのマンモスゾウ研究の権威者であるニコライ・ヴェレスチャーギン博士も元気な姿で出席され、娘さんといっしょに1970年以降のロシアのマンモスゾウ発掘について講演したり、巡検に参加したりしていた。

今回は日本人の参加者は著者ら2名だけであったが、第1回目、第2回目の出席者も少なかった。このような国際学会では最新の世界の研究事情を知ることができるばかりか、各国の研究者と交流できることが大きな魅力である。

第4回の会議は2007年にロシアのヤクーツク市で開催されることが決定した。この機会には是非たくさんの若い方の参加を期待したい。

最後に前回のオランダで開催された会議の内容をまとめたAdvances in Mammoth Re-

search 本が出版されたので紹介しておく。本の体裁については<http://members.lycos.nl/wpz/nieuwsitems/deinsea/deinsea.htm>でみることができるが、説明はオランダ語なので読むことは困難かもしれない。

## International Workshop “IMPACTS OF QUATERNARY CLIMATE CHANGE ON WESTERN ARCTIC SHELF LANDS : INSIGHTS FROM THE TERRESTRIAL MAMMAL RECORD” 出席報告

五十嵐八枝子(北方圏古環境研究室)

私は本通信の高橋・五十嵐で報告した「第3回マンモス学会」の直前、5月19日から21日まで、アラスカ州フェアバンクス市で開催された上記タイトルのワークショップに参加・発表したので報告し、若干の感想を述べたい。ワークショップの目的は、氷期のBeringiaにおける気候変動と哺乳動物に関する新知見を交換し、今後の共同研究の方向を探ろうとするものであった。会場はアラスカ大学構内の西端に位置するIARC「国際北方圏研究センター」である。IARCは日米共同研究プログラムとして日本が50%出資して、1997年に完成した。ちなみに現在の所長は、オーロラの世界的権威・赤祖父俊一教授である。本ワークショップのスポンサーは、IARC、アメリカ国立公園サービス、アラスカ第四紀研究センター、第3回マンモス学会である。参加者はアメリカ(28名)、ロシア(10)、イギリス(4)、デンマーク(1)、カナダ(5)、ドイツ(1)、日本(1)の50名であった。カナダ人たちはこのワークショップの直後に開催されるマンモス学会の組織委員であった。このうち、ロシア人全員と唯一の日本人である私は、全費用主催者持ちという御招待によって参加したのである。なお、参加者の多くが引き続いて第3回マンモス学会に参加したわけである。

ここで取り上げられたBeringiaは、カナダのユーコン準州からアラスカをへてベーリング海と北東シベリアおよび海面低下で出現した大陸棚を含む広大な地域である。驚いたことは、ベーリング海、カムチャッカ半島、サハリンそれに北海道がBeringiaに含まれ図示されていることであった。確かにBeringia fauna・主構成種のマンモスが北海道から産出しているのであるが。

講演は30件あり、そのうち主だったものは、第四紀後期のマンモス動物群の分布と花粉や昆虫化石による古環境の復元(10件)、動物群の移動、拡散、絶滅の時期と環境変動(5件)、周

氷河環境、水収支、地形、火山活動(5件)、人類遺跡(3件)で、その他マンモス化石の年代値やDNA研究などがあった。研究対象地域はBeringia全域にわたり、話題も多岐にわたった。私は1992年から1997年までの北海道大学低温科学研究所・福田正巳教授のプロジェクトで実施された北東シベリア・エドマ地帯の研究に参加したので、その成果をプロジェクトチームを代表して“Palynology of Yedomo”として発表した。内容は、北東シベリア・北極海沿岸の6地域から採取したエドマ堆積物の花粉分析による古植生と古気候の復元である。

ロシア側はAndrei Sherを中心としたドイツとの共同研究“The Laptev Sea System 2000”とA. V. Lozhkinとワシントン大学Patricia Andersonとの共同研究が目覚ましい成果を挙げている。従来から、この方面の研究はロシア人によって数多くなされていたが、ロシア語で書かれていたため引用しづらかったが、近年の成果は英語で発表されている。

今回最も印象付けられた発表は、Andrei Sherによるドイツとの共同研究の成果で、 $^{14}\text{C}$ 年代の測定限界値から12.5kaまでのLGMを含めた期間に、マンモスははじめ多くの動物がラプテフ海沿岸地域に途切れることなく生息したということであった。これら大型動物を養うに足る豊かな植生をAndrei Sherは“tundra-steppe”と呼んでいたが、その植生が数万年間変わらずに存在し続けたという話であった。そうすると、世界的に認められているStage 3の気候変動が極地域では現れなかったということであり、私には理解しがたいことであった。日本人にとってBeringiaに関する研究は地域的にも近づきがたく、興味深いものの、遠い存在であると思う。しかし、今回活発な欧米とロシアの研究に触れ、Beringiaの南端に位置する北海道に住むものとして、大いに刺激された次第である。

## 第47回粘土科学討論会のお知らせ

- 1) 主催：日本粘土学会
- 2) 共催：日本第四紀学会ほか
- 3) 期間：平成15年9月24日(水)～26日(金)
- 4) 会場：広島大学大学院理学研究科講義棟  
(東広島キャンパス)  
〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1  
TEL 0824-24-7466(北川)
- 5) 日程：  
9月24日 9:00-12:00 口頭発表  
13:00-14:00 特別講演  
14:00-17:30 シンポジウム  
18:00- 懇親会  
9月25日 9:00-11:00 口頭発表  
11:00-12:00 日本粘土学会総会  
9:00-12:00 ポスター展示  
12:00-14:30 ポスター討論  
14:30-17:30 口頭発表
- 6) 講演：  
A. 特別講演  
題目：「韓国の粘土鉱床」(仮題)  
黄 辰淵(釜山大)  
B. 平成15年粘土科学討論会シンポジウム  
粘土圏の空間分布  
14:00-14:35 地球表層における粘土圏の  
役割(仮題)  
14:35-15:10 地下深部における生命圏粘  
土圏相互作用(仮題)  
15:10-15:45 宇宙空間における粘土鉱物  
の分布とその存在意義(仮題)  
15:45-15:55 休憩  
粘土鉱物のナノ解析手法  
15:55-16:30 電子顕微鏡による層状珪酸  
塩のナノ解析法(仮題)  
16:30-17:05 分子シミュレーションによる  
粘土鉱物のナノ解析法(仮題)  
17:05-17:45 総合討論
- 7) 見学会：  
日 時：平成15年9月26日(金)  
場 所：呉市中国工業技術研究所(瀬戸内  
海大型水理模型・施設の見学)、東広島市  
西条粘土採掘場および西条酒蔵見学  
参加費：5000円/人  
申 込：講演申込みの際に申し込まれるか、  
官製はがきに参加者氏名・所属を記入して、  
下記申込先にお送りください。
- 8) 会費：  
参加登録料 会員(共催学会員を含む)  
2000円、学生会員1000円、非会員3000円  
講演要旨集代 3000円  
懇親会費；一般5000円、学生3000円
- 9) 宿泊案内：東広島市内に宿泊をお考えの  
方：宿泊施設が多くはありませんのでお早  
めにご予約ください。
- 10) 会場への交通：JR西条駅前からバス  
「広島大学」行に乗り、「広島大学・中央口」  
バス停で下車。広島バスセンターから、  
広島大学行き的高速バス(グリーンフェニッ  
クス)が1日15往復 運行
- 11) 連絡先：  
〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1  
広島大学大学院理学研究科・地球惑星シス  
テム学専攻 北川隆司  
TEL:0824-24-7466  
FAX:0824-24-7466  
e-mail:kitagawa@sci.Hiroshima-u.ac.jp  
電子メール:jige@hiroshima-u.ac.jp  
(地下)

## 平成15年度(第25回)沖縄研究奨励賞推薦応募のお知らせ

目的：沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的としています。本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている新進研究者(又はグループ)の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。応募資格は、学会、研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下(7月15日現在)の方で、出身地及び国籍は問いません。

応募期間：平成15年7月15日(当日消印から有効)～9月30日(当日消印まで有効)

応募方法・応募用紙請求・注意事項・その他詳細の問い合わせ先：

(財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」担当 石坂次郎

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15 グローリアビル7F

TEL:03-3580-0641, FAX:03-3597-5854, E-mail:fvgm0090@mb.infoweb.ne.jp

ホームページアドレス: <http://village.infoweb.ne.jp/~fvgm0090/>

## 第18期日本学術会議古生物学 研究連絡委員会 第9回議事録

日時：2003年5月15日(木) 13:30～16:00  
 場所：日本学術会議 601室  
 出席：斎藤 常正会員，野田 浩司，小泉 格，長谷川  
 善和，八尾 昭，小笠原 憲四郎，瀬戸口 烈司，辻  
 誠一郎，加瀬 友喜，西田 治文，北里 洋，大路 樹  
 生 各委員  
 欠席：なし  
 学術課：佐藤事務官

### 議 題

1. 前回の議事録の承認  
 第8回の議事録が示され，承認された。
2. 学術会議報告(斎藤)  
 5月8日に吉川弘之会長(日本学術会議改革推進  
 委員会委員長)より「日本学術会議の改革の具体化  
 について(案)」が会員に送付され，委員会の審議  
 経過の概要が明らかになった。これによると，1)  
 部の構成は，人文社会系，生命系，理工系の3部制  
 となる，2)会員数は現行の210名を基本とする，  
 3)従来の研究連絡委員会(委員会)に相当する連  
 携会員を設ける，4)従来の研究連絡委員会を廃止  
 して課題別委員会を置くなどの案が示されている。
3. 研連活動の自己評価(報告)  
 4月23日に野田委員長が学術会議(第18期)自  
 己評価委員会に活動の自己評価を提出した。18  
 (今)期研連の活動として，タイプ標本のデータベ  
 ース作成，博物館学芸員の研究環境の改善に関する活  
 動などが記されている。
4. 平成16年度科学研究費補助金の審査委員候補  
 者の推薦  
 日本古生物学会，日本地質学会，第四紀学会の推  
 薦に基づき，細目「層位・古生物」の一段委員6名  
 (改選委員数3名，補欠3名)，二段委員1名の推薦  
 を投票により決定した。なお，昨年度より継続の委  
 員に関しては改めて推薦を行う必要は無いことが示  
 された。
5. 次期申し送り事項  
 自己評価に示された事項のうち，特に1)教育機  
 関で学位を持つ研究者の研究環境の改善，2)デー  
 タベース出版で明らかになったタイプ標本の現状か  
 ら今後これを研究に生かす方策を考える，3)研連  
 が先頭に立って関係学協会と連携し，啓蒙活動等，  
 社会との接点を重視する活動を行う，等の項目を今  
 後の研連の課題として申し送ることとした。
6. その他  
 1)北里委員が中心となり作成中の対外報告書  
 「古生物学の現状と将来：基礎理学の重要性を鑑み  
 て」，およびその「要旨」が示された。完成原稿は  
 6月の総会の第4部会に提出される。2)小笠原委  
 員による「学術の動向」への原稿「20世紀に記載さ  
 れた日本の化石タイプ標本データベース第1巻～第  
 3巻」が示された。

## 2002年度第6回幹事会議事録

日時：5月17日(土) 14:00-16:00  
 出席：熊井久雄，真野勝友，鈴木毅彦，河村善也，  
 海津正倫，町田 洋，中川庸幸  
 欠席：宮内崇裕，福澤仁之，山崎晴雄，竹村恵二，  
 小田静夫，小野 昭

### 1. 報告事項

- 庶務：受入図書(11機関から15冊)，会員動向3月  
 分，評議員選挙開票結果と選挙管理委員会活動  
 (評議員選挙開票がなされ委嘱状が送られたこと  
 と今後の予定)，科研費審査委員候補者推薦依頼  
 への対応(層位・古生物：第一段2名，文化財科  
 学：第二段2名が幹事会での選挙により選ばれ  
 た)，平成15年度科研費「研究成果公開促進費」  
 不採択について，以上についての報告。
- 行事：大阪大会の準備状況，大会案内の第二報(第  
 四紀通信第10巻2号，4月1日発行)と第三報  
 (第10巻3号，6月1日発行予定)の内容につい  
 て。大阪大会では会場の都合からなるべくポス  
 ターの割合を増やしてもらいたいとのこと。平  
 成15年度科研費「研究成果公开发表(B)」(大  
 阪大会講演会ほか)の交付内定について。
- 広報：第四紀通信10-2(4月1日発行)を刊行した。  
 第四紀通信10-3(6月1日発行予定)の刊行準  
 備を進めている。第四紀通信の刊行体制を見直  
 し，10-3より編集書記としてお願いした岩本容  
 子さんによって編集が進められている。第四紀  
 通信PDF，集会案内，公募等を第四紀学会ホー  
 ムページに掲載した。
- 編集：投稿規定・執筆要項の見直しを進めており，  
 次回幹事会で審議し次回評議員会に諮る予定。
- 会計：3月31日現在の会計状況が報告された。
- 企画・渉外：特になし。
- 第四紀研究連絡委員会：学術会議に関連する法令変  
 更に関する動き，INQUAコミッション再編成に  
 関する動き，など。
- 2007INQUA招致ワーキンググループ：東京都助成  
 によるINQUA招致関連経費に関する第四紀学  
 会の一次立替について。招致が決定された場合  
 の実行委員会新設について。

### 2. 審議事項

- 学生会員継続手続き提出願いの締切を1週間のば  
 した上で会費請求することとなった。北海道開拓記  
 念館第56回特別展「北・貝・道 海と陸の人びと」  
 を後援することとした。第四紀研究からの図版  
 転載許可「第四紀研究，32巻5号272頁図1(上杉  
 陽，1993)」「地学見学案内書 富士山」(上杉  
 陽；日本地質学会関東支部)を行なった。第四紀  
 通信編集用のパソコンを購入することとした。旧石  
 器捏造問題に対する学会対応Working Groupを進  
 めるよう確認した。次回幹事会日程と新旧幹事会引  
 継について審議した。











第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会

神戸大学内海域機能教育研究センター	兵頭政幸
神戸大学大学教育研究センター	松下まり子
福島大学教育学部	後藤秀昭

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。